

深谷市幼稚園・こども館複合施設
建設工事設計業務公募型プロポーザル
審査結果報告書

令和5年2月

深谷市幼稚園・こども館複合施設
建設工事設計業務プロポーザル審査委員会

1 本プロポーザルの実施目的

本プロポーザルは、深谷市幼稚園・こども館複合施設建設基本計画（令和4年7月策定）に基づき設置される深谷市幼稚園・こども館複合施設の建設工事設計業務（基本設計・実施設計）を委託するに当たり、高い技術力、豊富な経験及び発注者の考え方への柔軟な対応力などを有する設計者を選定することを目的とする。

2 審査会の内容

(1) 審査経過

令和4年10月 5日（水）	第1回審査委員会（実施要領等の決定）
令和4年10月13日（木）	公募型プロポーザル募集の開始
令和4年10月31日（月）	参加申込書等の提出期限
令和4年11月16日（水）	第2回審査委員会（第1次審査の実施）
令和5年 1月31日（火）	技術提案書の提出期限
令和5年 2月10日（金）	第3回審査委員会（プレゼンテーション及びヒアリング、第2次審査の実施、受注候補者等の特定）

(2) 審査の内容

第1次審査では、参加申込書の提出があった6者について、設計事務所の能力として技術職員数、有資格者数、同種業務実績（件数及び児童館等の用途に供する床面積）、また、配置技術者の能力として保有資格、業務実績（用途及び携わった立場）、経験年数に関する審査を行い、評価の高かった5者を技術提案書の提出要請者として選定した。

第2次審査では、その5者から提出された業務実施方針及び4つのテーマ（テーマ1教育・子育てを支える拠点、テーマ2複合施設の有効な運用方法、テーマ3ゼロカーボンシティを目指して、テーマ4地域の特性、特色を考慮した施設）に対する技術提案書について、プレゼンテーション及びヒアリングを実施した。業務実施方針については、業務の理解度、取組方針・実施体制・工程計画・配慮事項の的確性、また、テーマに対する技術提案書については、テーマごとの的確性、独創性及び実現性の観点から評価を行った。その後、これに業務見積書評価を加え、審査委員会委員による合議制審査により各者の合計評価点を決定し、点数が高い方から順に受注候補者、次席者を選定した。

3 参加者名（五十音順）

株式会社 新居千秋都市建築設計
株式会社 桂設計
株式会社 環境デザイン研究所
株式会社 国設計
有限会社 SOY source 建築設計事務所
株式会社 三上建築事務所

4 審査結果（第2次審査）

区分	参加者名（呼称）	合計評価点
受注候補者	株式会社 桂設計（C社）	70.80点
次席者	株式会社 国設計（E社）	65.40点
—	（A社）	62.90点
—	（D社）	55.10点
—	（B社）	54.90点

（100点満点）

5 審査委員会の構成

役職	氏名	職名
委員長	長原 一	深谷市副市長
副委員長	小柳 光春	深谷市教育長
委員	奥富 庸一	立正大学 教授
委員	原口 政明	埼玉純真短期大学 准教授
委員	中野 万紀子	埼玉建築士会 理事・大里支部長
委員	田嶋 英生	深谷市都市整備部長
委員	小林 利夫	深谷市こども未来部長
委員	荻野 昌利	深谷市教育部長

6 審査講評

各提案者とも業務実施方針については、知見に基づき教育・子育てについてよく研究されており、それを実現するために高い専門性を持つ設計チームで業務に対応することなどが伝わる内容であった。テーマ1については、こどもの創造性を広げるための工夫や子育て交流についての考え方などがまとめられていた。テーマ2については、管理区分によるゾーニングを設定し安全安心に利用できることや、幼稚園とこども館の共用利用による相乗効果が生まれることなどについて検討がされていた。テーマ3については、深谷市の気候風土を踏まえた再生自然エネルギーの活用を含め多くの省エネルギー技術を取り入れることやコスト低減と長寿命化を両立させることなどの計画がされていた。テーマ4については、レンガの街にちなんだレンガの活用、周辺公共施設との連携・調和及び災害対策など当該地域に適した計画の提案であった。

受注候補者として特定された株式会社桂設計の提案は、各評価項目において高い評価を得ており、特にテーマ2に掲げる複合施設の有効な運用方法への理解度が高く評価された。具体的には、こども館のわんぱくアリーナと幼稚園の遊戯室が5者の提案中、唯一、隣接している配置で、幼稚園児が一般利用者と交錯することなく安全にわんぱくアリーナに移動できるほか、イベント時などにこれら諸室が拡張利用でき大人数、多目的に対応できる計画が高く評価された。また、階の異なるプレイホールとわんぱくアリーナが1か所から望めるといふ視認性の良さが、年齢の異なる複数のこどもを連れてくる保護者側の観点から評価された。一方、全体計画がオーソドックスであること、エントランス周りが雑然としていることについては改善が必要な点とされた。

次席者となった株式会社国設計の提案は、ゾーニングを明確に設定し、こどもが集中して活動できることに重点を置くなど、よく練られた計画で高い評価を得た。深谷の気候風土、歴史や地理をよく調べておりそれが随所に工夫として生かされていた。また、外構計画については、独自に設定したテーマに基づき検討されており、特に敷地南東に計画された広場は幼稚園とこども館のアプローチのみにとどまらず周辺公共施設の中心広場として考えられているなど高い提案力を感じるものであった。一方、こども館内部の視認性、園庭面積の確保や植栽の維持管理が難点であることなどが懸念された。